

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町

京都大学教育学部図書室

(竹村心気付)

TEL 075-753-3013

大図研大学「理工学資料概論」に参加して

蒲 彰子

(京都大学工学部土木系図書室)

12月8日から9日にかけて、京大会館で大図研大学「理工学資料概論」が行われた。その簡単な内容の紹介と感想を述べたいと思う。

講師は国立国会図書館科学技術資料室の林典門氏である。同じ理工系とはいいながら、はるか遠くの存在に思えてしまう科学技術資料室、どんな方がどんな講義をされるのだろうと緊張してしまった。

内容は、「資料の基本的知識」と「資料検索の実際」の大きく2つに分かれ、それぞれについて豊富な資料を使って説明があった。

まず、「資料の基本的知識」の最初の項目として、科学技術情報一般について、分類・最先端技術・情報の流通などの面から解説があった。最近の科学技術分野のめざましい発展によって、従来のスタンダードな分類表ではその全体がカバーしきれなくなっているが、JICSTや米国商務省の分類なら今のところ現実的に対応できるのではないかとのことだった。

次に主要な理工学文献の種類についてそれぞれ紹介された。テクニカルレポートや学協会ペーパー、規格資料などは、「科学技術文献サービス」で以前に特集されていたのを私も読んでいたはずだったが、やはりふだん仕事で見る機会のないものは頭の中で風化してしまうらしい。よい復習の機会になった。

それから情報の提供ルートとして、各種データベースシステム、国内外の情報提供機関の一覧表をざっと示された。国内では、国立国会図書館、JICST、学術情報センターが主な資料情報機関だが、国会図書館の場合、法律上の規定から収集・保存に力点がおかれており、情報を加工してデータベースなどにしてサービスするということがあまりなされていないということだった。

2日目の昼は思いもかけず曼殊院近くまでドライブすることになり、おいしい昼食と初冬の野辺の散策というおまけがついた。ここで午後の講義へむけて気分

をあらたにした者と、このまま観光地めぐりになるのではとひそかに期待した者とがいたようだ。

もちろんまじめに京大会館に戻り、午後の講義が続けられた。今度は「資料検索の実際」ということで、探索命題の分析、類推の方法、二次資料の選択についての話がまずあった。7×7(?)法やサークル法など私にとって耳新しい類推の技法が紹介されたが、実際に図書室で質問を受けたときにこのように手続きにのっとりうまく対応できるだろうかと思った。

次は主な検索ツールの紹介、そして最後に、科学技術資料室でのレファレンスの実際例が27件示された。私にとってはこの実例集が講義全体の中で最も興味深かった。実際に自分の図書室のカウンターでできそうな質問例もあり、自分ならどうする、と考えながらきくことができた。しかし京大工学部の場合、教室ごとの図書室に分かれているため、基本的といわれるツールを自分の図書室で備えられないことがある。S C IやG R A & Iなどは附属図書館に行けば見ることができのだが、はるばるキャンパスを横切って行かなければならないことを考えるとついおっくうになってしまう。もっともその点はデータベースの活用でかなり解決されるのだろうが。気軽に使えるN A C S I S - I Rがもっと充実することを希望する。

今回のような理工系分野での研修の機会は、ほとんどといっていいほどないのが現実だ。個々の図書室(館)職員は、自分の関係する分野を中心に独学プラス経験で対処していくしかない。しかし今日科学技術は時々刻々発達しており、それにとまなう情報も、莫大な量がものすごい速度で生産されている。そのような状況で個々の図書室の個々の職員が努力して身につける能力には限界がある。

また、科学技術という広大な海の中で、自分が携わっているこの分野はどのような位置にあるのか、他の分野とどのように関わっているのかを見きわめることは大切なことだと私は思う。だがこのような体系的な知識を持つことは、今のシステムではきわめて困難だ。

そういう意味で今回の「理工学資料概論」はとても貴重な体験だった。またぜひこのような大図研大学を企画してほしい。

京都大学経済学部における時間内研修の実例：ハングル研修

近年、アジア経済にも関心もたれ、ハングルで書かれた文献を扱う研究者が増加してきた。当学部においても、研究室へ送付されてくる寄贈本の中に、ハングルで書かれた図書があり、図書室で扱ってもらえないかという申し出もあったが、日常の仕事に追われ、延び延びになっていたが、昨年3月、特別研究費で15冊のハングルで書かれた図書が購入された。当図書室では、中国図書、韓国図書は和書扱いになっている。他学部、他大学のハングル図書の扱いを尋ねてみたところ、大抵は、漢音よみで処理されていた。研究者はハングルが読めるのが前提なので、漢音読みは困ると言われた。韓国ではKOA-MARCがあり、学術情報センターも検討中とのことではあるが、ここ1年では実現しそうにもなく、いよいよ、ハングル研修をしなければならなくなった。掛長、図書委員長奔走の結果、公のものとして、時間内研修を実施してもらうこととなった。講師は韓国から帰国されたばかりの当学部教官、受講者は業務上直接必要とされる職員に限定し、和書受入1、和書目録2、閲覧2名になった。今回の研修目標は「辞書が引けるようになる」ことと、「目録がとれるようになる」こととした。閲覧掛では会話ができる研修が必要だが、2年位はかかるといわれたので断念した。実際には、「ハングル講座2時間を3回」「ワープロの使い方1時間」が実施された。ワープロについては、『韓国語/日本語ワードプロセッサ KOA-文書「한글」』（高電社発売。NEC9800シリーズに対応）を購入してもらった。

第1回：アルタイ語、ハングル文字の成り立ち。参考書の紹介。別表①の教材を使用して基礎を習う。辞書のひきかた。（'90.8.8）

第2回：教材にそって、助詞の説明。宿題として本の目次4ページだされる。（'90.8.9）

第3回：宿題のよみあわせ。活用を少し。（'90.10.11）

第4回：ワープロの使い方（図書委員長）を習い、カード様式を設定してもらう。（'90.10.26）

無事研修は終了し、ワープロで打ち出したものをカットしてカード複写機にかけ目録カードは出来上がり、年末に教官の手に図書を届けることできた。10か月かかってしまった。今回の研修については、掛長、図書委員長に理解してもらえ、全て時間内に研修が行われ、教材、参考図書も校費で購入してもらえた。ただ、講師の方については、全くの奉仕で、謝礼の出所はどこにもなかった。講師は独力で韓国語をマスターされたせいも、初歩の我々にたいしてつまずきそうな所は丁寧に、要を得た教えかたで必死についていったが、好意ある講師や熱心な図書館職員のために、今後は是非、校費から講師料がでるよう切に望む。（いろいろな人にお世話になりましたが、特に、一橋大学、同志社大学の和書の方には多く教わりました。紙上をかりてお礼申し上げます。）

（文責 篠原恵子）

京大・経済

7
1-1
종합상

総合商社論
金 張來 著
서울特別市 博文社 1987
443p 23cm
(經營學叢書)

89088370
1990.3.28
赤岡教授室用
6,800円

○ 종합상사론
김, 영내
경영학총서

京大・経済

16
2
한국의

韓國の經濟指標
金 景中 著
서울 毎日經濟新聞社 1989
752p 23cm

89088368
1990.3.28
赤岡教授室用
9,500円

○ 한국의경제지표
김, 경중

京大・経済

2
2-2
국가독

국가독점자본주의이론연구 1
경 문영 編
서울시 돌베개 1987
386p 23cm
(돌베개인문사회과학신서 30)

89088373
1990.3.28
赤岡教授室用
4,500円

○ 國家独占資本主義理論研究 1
돌베개人文社会科学新書 30

教材

1. ハングルの練習問題 (別冊 宝島50) JICC(ジック) 出版局 1990
ハングル → 日本語
2. コスモス朝和辞典 菅野裕臣〔等〕編 白水社 1988
3. 民衆^{어선} 韓日辞典 安田吉実, 孫洛範共著 民衆書林 1990
(三修社から「〔最新版〕韓日辞典」として発売)
4. 朝鮮語大辞典 上, 下, 補卷 大阪外国語大学朝鮮語研究室 角川書店 昭和61
日本語 → ハングル
5. 民衆^{어선} 日韓辞典 改訂新版 安田吉実, 孫洛範編著 民衆書林 1990
(三修社から「改訂新版 日韓国辞典」として発売)
6. 修正増補漢韓大辞典 梁柱東〔等〕責任監修 明文堂 1987
韓 → 韓
7. ^{어선} (国語大辞典) 李熙昇編 民衆書林 1987(三修社から「ハングル大辞典」)
人命のよみ
8. 韓国朝鮮人名仮名表記字典 金東勲監修 プレーンセンター 1984

第4回支部委員会記録

日時・1991年2月5日(火) 18時30分～ 場所・京都大学教育学部

出席・篠原, 竹本, 竹村, 橋本, 小林, 松原, 西川(オブザーバー)

欠席・西野, 堤, 大館 議長・竹本

1. 報告 (1) 情勢 (2) 新春5支部合同例会一参加28名(京都支部7名) (3) 大図研大学—江戸文学概論 会員10名プラス2名参加。英書購読 1月3名, 2月休み, 3月打ち上げ予定。科学史 12月合宿で終了。収書ゼミ 1月中止。(4) 班会 2月16日 同志社大学 テーマ・別紙の分類, 図書記号の変更 (5) 日図協評議員選挙開票結果 有権者130, 投票65, 有効投票63, 若井15, 澤居13

2. 議題 (1) 「年報京都の大学図書館」について—調査項目が決まる。締切3月末。
(2) 全国研究集会について (3) 支部報について—発送体制